令和５年度　体育科　授業改善推進プラン

大田区立池上小学校

１　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）成果

・ＩＣＴを用いて、ダンス、跳び箱やマット、陸上運動など活動の様子を振り返る学年、学級が増えた。
・運動への関心や意欲を高めるために、体育朝会を定期的に実施することができた。
・学習カードや掲示物を用いることで、具体的なめあて、活動内容をイメージして学習に取り組ませることができた。
・基本の動きを拡大掲示し段階を踏んで教えることで、基本的な動きを身に付け、身体の動かし方を工夫して取り組めた。
・毎時間、学習カードへめあてと振り返りを行い、児童の意欲や思考力を高めることができた。
・グループの人数を最小限にすることで、話し合い、学び合い活動を活発にした。

（２）課題

・先生方に向けての体育の実技研修を定期的に実施できず、先生方の体育指導や安全指導にばらつきが生じた。
・「投げる」運動に苦手意識をもつ児童が多い(R5 体力テストの結果)。投げるボールの種類によって投げ方が違うため、多様な経験ができるようにする。また、ボールを「捕る」取り組みも進める必要がある。
・運動への関心や意欲、技能に個人差が見られ、運動領域によって運動に対する苦手意識や抵抗感をもつ児童とそうでない児童の二極化が見られる。
・ＩＣＴ機器の活用が学年や学級によって不十分だった。
・日常の運動経験の差が、体育での技能差につながっている。

２　授業改善のポイント（観点別）

（１）低学年

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
・段階を踏んで、運動遊びの基本的な動きを身に付けられるよう、年間の単元構成や１単元の構成を工夫する。 ・**運動の楽しさや喜びに触れながら基本的な動きが身に付くよう、ＩＣＴ機器を用いて動き方の視覚的な理解を促したり、友達との交流活動、学習カード等を用いた動き方のポイントの確認ができたりするように工夫する。** ・ペアやトリオでの教え合いの場を設け、互いの動きを見せ合ったり、友達の真似をしたりして基本的な動き方を身に付けられるよう指導する。	・児童が考えながら運動遊びに取り組めるように、場や練習の仕方、ワークシートを工夫したり、選択したりできるようにする。 ・**運動遊びの楽しみ方を提案したり、児童が考えた楽しみ方を共有する場面を設定したりして、自己に合った楽しみ方の選択や工夫がしやすいようにする。** ・考えを他者へ伝える力を養うために、ペアから徐々に話し合う人数を増やす。また、言葉での説明だけでなく、動き方の再現、感想文や絵で表現するなど、児童の実態に応じた伝え方を選択できるようにする。	・**教材、教具、場を工夫して、決まりを守りながら、運動遊びの楽しさを味わえるようにする。** ・準備運動で学習に関連する簡単な動きを取り入れたり、ゲーム性のある内容を取り入れたりするなど、誰もが楽しめる内容を行う。 ・ペアやトリオなど、最小限の人数でグループをつくることで活動の機会を増やし、協力して取り組むことができるようにする。 ・準備や片付け、運動遊びの安全な行い方等について、繰り返し指導する。

（２）中学年

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
・段階を踏んで、健康で安全な生活や体の発育・発達、及び各種運動の基本的な動きや技を身に付けられるよう、年間の単元構成や１単元の構成を工夫する。 ・ＩＣＴ機器を用いて、ペアやトリオで互いの動きを確認し教え合いながら技能を身に付けられるよう指導する。 ・児童の実態に応じて活動の場を選べるようにして、運動のポイントを段階的におさえながら学習できるように工夫する。 ・養護教諭、栄養士等と連携して、日常生活と結びつけながら指導を行うことで、保健学習、食育が身に付けられるよう指導する。	・自己の運動の課題を見付けさせるために、児童が自己の能力に適した運動の課題を見付けられるような場の設定をする。 ・自己の身近な生活における健康の課題を見付けさせるために、内容にかかわる情報を家庭で見付けたり、インターネットで調べたりして、自己の経験を振り返らせる。 ・課題解決の方法や活動を工夫させるために、教師が工夫の例を提示したり、友達の提案を広める時間を設定したりする。 ・考えたことを他者へ伝えさせるために、自己の工夫を発表する場を設けたり、学習カードへ記入したことを共有する時間を設定したりする。 ・話し合いや振り返りなどで、お互いに安全や健康について考える機会を設定する。	・教材、教具、場を工夫して、最後まで運動することで、運動の楽しさを味わえるようにする。運動によっては、機械・器具の近くに多くのマットを敷いたり、補助具を活用したりして、運動への意欲を高める。 ・ペアやトリオなどのグループ活動を通して、協力することや励まし合うこと、考えを認め合うことの大切さに気付かせる。 ・準備や片付け、運動の安全な行い方等について、繰り返し指導する。 ・健康の大切さに気付かせ、自分の健康状態について知ったり、改善したりできるようにする。

（３）高学年

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
・段階を踏んで、健康で安全な生活や体の発育・発達、及び運動の技能に応じた基本的な動きや技能を身に付けられるよう、年間の単元構成や１単元の構成を工夫する。 ・正しい動き方や、自分の動きを知るために、ＩＣＴ機器を活用し、基本的な動きを身に付けられるよう指導する。 ・児童が実態に応じた場を選び、教え合いながら段階的に技能を身に付けられるよう指導する。 ・養護教諭、栄養士、ゲストティーチャー等と連携し、日常生活と結び付けながら指導を行い、保健学習、食育、薬物乱用、飲酒、喫煙などに対する正しい知識を身に付けられるよう指導する。	・自己やグループの課題を見付けさせるために、教師が児童の課題を把握する。その課題に応じた練習の場、技や技術を確認する時間を設定する。 ・身近な健康にかかわる課題を見付けさせるために、内容にかかわる情報を家庭で見付けたり、インターネットで調べたりして、自己の経験を振り返らせる。 ・課題解決のための方法や活動を工夫させるために、児童の実態に応じた場の設定をしたり、楽しみ方の工夫を教師が提案したりする。 ・考えたことを他者に伝えさせるために、自分の考えだけでなく仲間の考えたことを伝える場を設定する。また、学習カード記入したことも共有する時間を設ける。 ・話し合いや振り返りなどで、お互いに安全や健康について考える機会を設定し、仲間と協力して行う。	・運動の楽しさや喜びをより一層深められるよう、児童一人一人の興味・関心に合わせた多様な場を用意し、運動の特性や良さを実感できるように指導する。 ・ペアやトリオなどのグループ活動を通して、協力することや励まし合うこと、認め合うことで、よりよい課題解決の方法に取り組めるようにする。 ・準備や片付け、運動の安全な行い方等について、繰り返し指導する。 ・ＩＣＴ機器で学習カードや自己の技能の高まりを振り返れるようにし、成長を実感できるようにする。 ・健康や安全の大切さに気付かせ、すすんで自分の健康状態について知ったり、改善したりできるようにする。